

髪が繋ぐ人々の思い

高崎市立中尾中学校

三年 中曽根 希咲

皆さんは、「ヘアドネーション」を知っていますか。

ヘアドネーションとは、簡単に言うと、自分の髪の毛を寄付するボランティア活動です。寄付された髪の毛は、小児ガンや先天的な脱毛症、突然の事故などで髪を失った人たちの医療用ウィッグとして使用されます。

私は今までに二度、ヘアドネーションをしたことがあります。一度目は小学四年生のときです。母からヘアドネーションのことを聞き、自分の伸ばした髪が、髪の毛で困っている人に届いて、一人でも救われるのだと思うと嬉しくなりました。

ただ、ヘアドネーションをするには条件があります。まずは、引っ張っても切れない健康な髪である必要があります。また、最低でも、髪の毛の長さが三十一センチ以上必要です。大変重宝されるロングヘアの医療

用ウィッグは、四十〜五十センチ以上も必要で、三十一センチに満たない場合は研究用や美容師の練習用マネキンに使われます。

一度目のヘアドネーションは三十一センチで切りました。「誰かに届く」と思うと嬉しかったし、社会に貢献できている気がして、とても誇らしい気持ちになりました。すぐに、もう一度ヘアドネーションをしたと思います。

しかし、二度目のヘアドネーションは大変な道のりでした。中学生になり、毎日が忙しくなりました。忙しい生活の中、寄付ができる髪質を維持しながら伸ばし続けることは大変なことでした。また、私は中学校でバスケットボール部に入部しましたが、夏の暑さや激しいプレイの際には、髪の毛を邪魔に思うことが多々ありました。髪の毛のわずらわしさは、私にとって、かなりのストレスで、途中で切ってしまおうかと何度も悩みました。しかし、「頑張ってここまで伸ばしたのだから」「もう少し頑張ろう」と思って、伸ばし続けることができました。その結果、二回目のヘアドネーションでは、三十五センチまで伸ばすことができました。

した。束になった髪の毛を見て、前回よりも伸ばせた達成感と、誰かの役に立てたことに、深い喜びを感じました。

今年の夏、私の祖母はガンになり、抗がん剤治療を受けました。幸い、抗がん剤治療のおかげで、ガンは小さくなりました。命が助かり、安心しましたが、抗がん剤の副作用で、キレイだった祖母の髪の毛はだんだんと抜け落ちていきました。離れて暮らす祖母に会うたび、私の知っている祖母の姿から、かけ離れていくのが悲しく、衝撃的だったことを覚えていきます。同時に、「私の髪を祖母に届けたい」「私の髪で祖母を笑顔にできる」そう思い、ヘアドネーションの再開を決意しました。しかし、現実には厳しいもので、私は本当に悔しい思いをしました。

実は、現在のヘアドネーションの対象は主に十八歳以下の未成年です。高齢の祖母は対象になりません。それだけでなく、ヘアドネーション用の髪の毛も不足しており、人件費や技術費も不足し、必要としている人たちに十分に届けることができていないのが現状です。このような現状では、私の髪はおろか、ヘアドネ

ーションの髪の毛すら祖母のところには届きません。私はヘアドネーションの支援が、年齢に関係なく、必要とするすべての人に届く未来が来ることを願っています。そのために、自分ができることは現在も続けています。私はバスケットをしているので、二回目のヘアドネーションの後は短いままにしています。高校生になったら、ヘアドネーションを再開し、次は四十センチ以上に挑戦します。

皆さんも、自分にできることの一つとしてヘアドネーションに挑戦してみませんか。医療用ウィッグを一つ作るには、三十人から五十人分の髪の毛が必要で、たくさんの人の協力が必要です。髪の毛を伸ばすことは、大変かもしれませんが、長い髪をバツサリ切ったときの解放感は大きいし、周囲のリアクションも面白いです。楽しみながら、無理なく続けられるボランティアがヘアドネーションです。髪の毛を寄付する人も、される人も、そして私も。支援の輪が人々を繋ぎ、みんながニコニコ笑顔になれる明るい未来を願います。